資料１

超高齢社会の日本における感染症対策を考える

緊急災害時・集団生活時への備え
～感染症予防の心得～

2026年11月10日
東京都医師会　理事
鳥居　明

公益社団法人
東京都医師会

感染症対策の原則

VPD
vaccin preventable disease

ワクチンで防げる病気は
ワクチンで防ぐ

Life-course immunization

生涯を通じて予防接種を行う
小児中心から
「生涯を通じた接種」へ

２０２６年になってからの主な災害
（激甚災害）

【指定済】

- １月　６日　島根県東部を震源とする震度５の地震
- ４月２２日　岩手県上閉伊郡大槌町で発生した林野火災
- ７月２８日　熊本県熊本地方を震源とする震度７の地震

【指定見込】

- ８月１３～１４日　千葉豪雨　梅雨前線豪雨
  台風２５号による豪雨災害

災害関連死：自然災害による直接死ではなく発災後の避難生活での間接的な原因で死亡すること

避難所・災害現場で注意すべき感染症①

災害時に危険が増加する感染症（外傷・環境曝露）

外傷や汚染水への曝露に伴い、平時より発生頻度・重症度が高まる感染症

- 外傷後の創部感染
- 破傷風
- 汚染水の曝露により感染（レジオネラ肺炎、レプトスピラ症等を含む）



一般社団法人　日本感染症学会より引用

避難所・災害現場で注意すべき感染症②

特に屋内での密集と乾燥・低喚気により、
呼吸器感染症と感染性胃腸炎が集団発生しやすくなります

【呼吸器感染症】

- インフルエンザ
- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）
- ＲＳウイルス感染症
- 肺炎球菌性肺炎
- マイコプラズマ肺炎
- ヒトメタニューモウイルス感染症
- 百日咳
- Ａ群連鎖球菌性咽頭炎

【感染性胃腸炎】

- ノロウイルス感染症
- ロタウイルス感染症

一般社団法人　日本感染症学会より引用

成人のワクチン手帳

- 2025年11月、高齢者の予防接種記録の保管を目的とした「成人のワクチン手帳」を作成
- 高齢者の定期接種４種に加え、任意接種のRSウイルスワクチンも掲載
- 会員医療機関を通じて都民に配布
- 東京都医師会ホームページからダウンロード可能

https://www.tokyo.med.or.jp/40190

成人の
ワクチン手帳

氏 名：





還暦 古希 喜寿 傘寿 米寿 卒寿 白寿 百寿 茶寿 皇寿 大還暦

2025.11月作成

はじめに

高齢者になると体力や免疫力が低下し、感染症等に罹ると入院や重篤な合併症リスクが高まります。

予防接種を受け、記録を保管しておくことは、ご自身や周りにいる大切な方々を感染症から守るためにとても大切なことです。

この手帳は、主に65歳以上の高齢者にご利用いただくことを目的に作成しました。

何か心配なことなどありましたら、かかりつけ医等にご相談ください。

公益社団法人　東京都医師会

◎ 予防接種を受けることで･･･



（１）重症化や入院を防ぐ
（２）回復後の生活機能低下を防ぐ
（３）周りにいる大切な方などへの感染を防ぐ
（４）医療費や介護(看護)負担の軽減につながる

※上記のことが期待できるほか、罹患しても比較的軽い症状で治まるなど様々なメリットがあります。



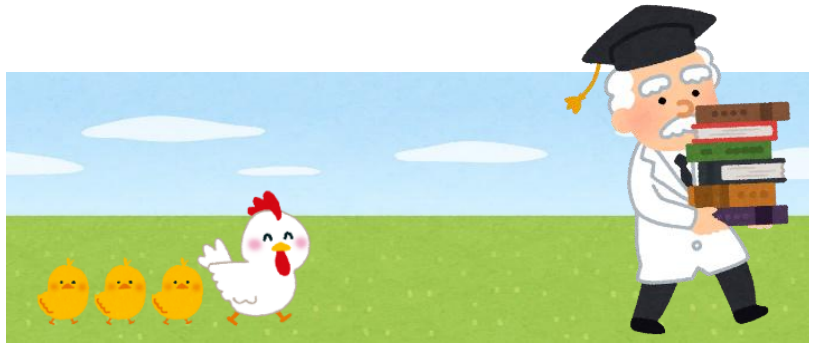
◐本手帳は、国立病院機構東京病院感染症内科永井英明先生にもご協力いただき作成いたしました。

◇ 予防接種の分類 ◇

◆ **定期接種**：予防接種法による接種
無料または一部自己負担
［自治体、疾病で異なる］

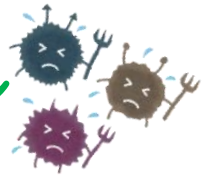
◆ **任意接種**：任意の予防接種
個人が希望する医療機関で
費用は自己負担または補助
がある場合もあり
［自治体、疾病で異なる］

◆ **臨時接種**：予防接種法による接種
無料
蔓延予防上緊急の必要性が
あると認めるとき実施





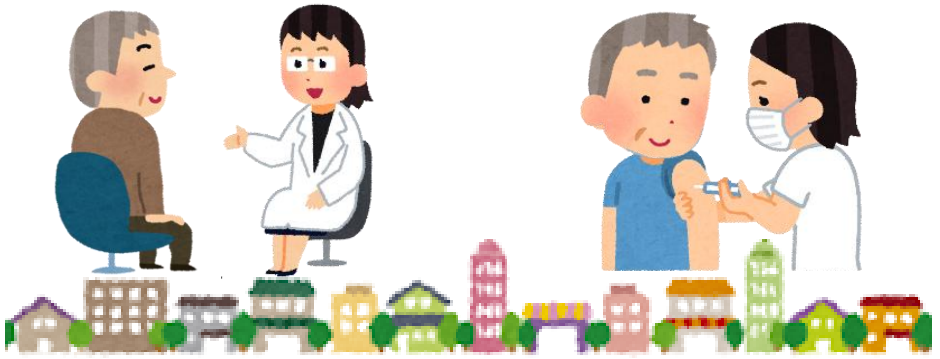
主に65歳以上の方を対象にしたワクチン





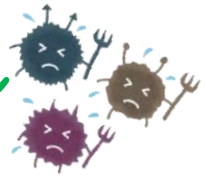
疾患名	病気の特徴	接種対象者	接種回数
インフルエンザ	日本では、インフルエンザによる年間死亡者の9割以上が65歳以上の方であり、インフルエンザウイルス感染は高齢者にとって命に関わる深刻なリスクとなっています。	➤定期接種：65歳以上 （あるいは60～64歳で、基礎疾患のある方） ➢65歳未満でも任意接種可	毎年秋冬、1回
新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症は、高齢者や基礎疾患のある方では、重症化するリスクが依然として高く、インフルエンザと少なくとも同等かそれ以上と考えられています。	➤定期接種：65歳以上 （あるいは60～64歳で、基礎疾患のある方） ➢65歳未満でも任意接種可	毎年秋冬、1回







主に65歳以上の方を対象にしたワクチン





疾患名	病気の特徴	接種対象者	接種回数
肺炎球菌感染症	日本の死因の第5位が肺炎で、死亡者の95%以上が65歳以上の方です。高齢者の一般的な肺炎の原因で、もっとも多い菌は肺炎球菌です。	➤定期接種：65歳 （あるいは60～64歳で、 基礎疾患のある方） ➢高齢者又は肺炎球菌による疾患に罹患するﾘｽｸが高いと考えられる方 任意接種可	1回 ※2回接種の組合せもあり
帯状疱疹	過去に感染した水ぼうそうウイルスが神経節に残り、高齢者や基礎疾患のある方では、免疫力が低下しているため、発症しやすく、神経痛が残って強い痛みが長期間続くこともあります。	➤定期接種：65歳の方 5年間の経過措置として、70歳以上で、5歳ごとの年齢の方 ➢50歳以上で任意接種可、また、発症ﾘｽｸが高い18歳以上の方は組換えワクチン接種可	➤組換えワクチン：2回 ➤生ワクチン：1回
RSウイルス感染症	高齢者では、肺炎や呼吸不全に至ることもあります。インフルエンザと同等かそれ以上に重症化することがあります。	➤任意接種：60歳以上 ➢50歳以上で重症化するﾘｽｸの高い方任意接種可	1回

インフルエンザワクチン



接種年月日	ﾜｸﾁﾝの種類	ﾛｯﾄ番号・ﾒｰｶｰ	接種した医療機関名	MEMO
	☐ 不活化（標準用量） ☐ 不活化（高用量） ☐ その他			
	☐ 不活化（標準用量） ☐ 不活化（高用量） ☐ その他			
	☐ 不活化（標準用量） ☐ 不活化（高用量） ☐ その他			
	☐ 不活化（標準用量） ☐ 不活化（高用量） ☐ その他			
	☐ 不活化（標準用量） ☐ 不活化（高用量） ☐ その他			
	☐ 不活化（標準用量） ☐ 不活化（高用量） ☐ その他			
	☐ 不活化（標準用量） ☐ 不活化（高用量） ☐ その他			
	☐ 不活化（標準用量） ☐ 不活化（高用量） ☐ その他			
	☐ 不活化（標準用量） ☐ 不活化（高用量） ☐ その他			
	☐ 不活化（標準用量） ☐ 不活化（高用量） ☐ その他			

新型コロナワクチン



接種年月日	ワクチンの種類	ロット番号・メーカー	接種した医療機関名	MEMO
	☐ mRNA ☐ 組換えタンパク ☐ その他			
	☐ mRNA ☐ 組換えタンパク ☐ その他			
	☐ mRNA ☐ 組換えタンパク ☐ その他			
	☐ mRNA ☐ 組換えタンパク ☐ その他			
	☐ mRNA ☐ 組換えタンパク ☐ その他			
	☐ mRNA ☐ 組換えタンパク ☐ その他			
	☐ mRNA ☐ 組換えタンパク ☐ その他			
	☐ mRNA ☐ 組換えタンパク ☐ その他			
	☐ mRNA ☐ 組換えタンパク ☐ その他			
	☐ mRNA ☐ 組換えタンパク ☐ その他			

肺炎球菌ワクチン



接種年月日	ワクチンの種類	ロット番号・メーカー	接種した医療機関名	MEMO
	☐ 23価ポリサッカライド ☐ (　　価) 結合型			
	☐ 23価ポリサッカライド ☐ (　　価) 結合型			

帯状疱疹ワクチン



接種年月日	ワクチンの種類	ロット番号・メーカー	接種した医療機関名	MEMO
	☐ 生 ☐ 組換え			
	☐ 組換え			

ＲＳワクチン



接種年月日	ワクチンの種類	ロット番号・メーカー	接種した医療機関名	MEMO

その他ワクチン



接種年月日	ワクチンの種類	ロット番号・メーカー	接種した医療機関名	MEMO



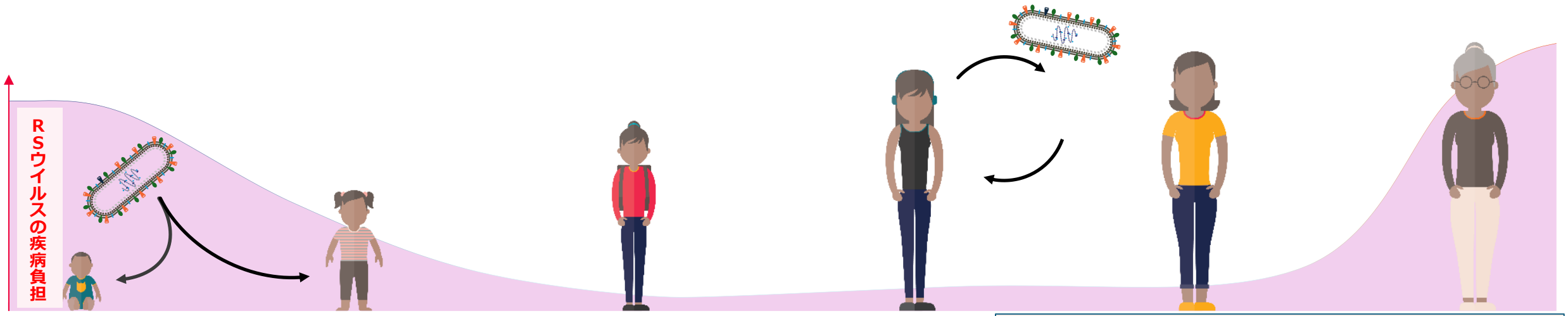
『長寿の祝いの基礎知識』



還暦（かんれき）満60歳（数え61歳）、
古希（こき）70歳、喜寿（きじゅ）77歳、
傘寿（さんじゅ）80歳、米寿（べいじゅ）88歳、
卒寿（そつじゅ）90歳、白寿（はくじゅ）99歳、
百寿（ひゃくじゅ）100歳、
茶寿（ちゃじゅ）108歳、皇寿（こうじゅ）111歳、
大還暦（だいかんれき）満120歳（数え121歳）

全年齢層におけるRSウイルス感染による疾病負担

RSウイルスは乳幼児期だけではなく、生涯を通じて繰り返し感染する可能性がある



2歳までにほぼ100%がRSウイルスに感染する[1)]

自然感染後の免疫応答は不完全で、長く続かない[2)]。
RSウイルスの再感染は生涯を通じて起こる[3)]

高齢者はRSウイルス感染で重症化するリスクがあり、基礎疾患があると、更にリスクが高まる[4,5)]

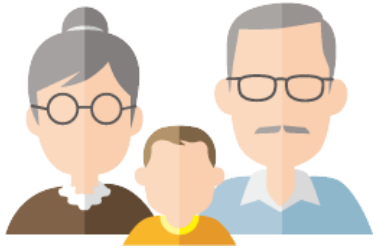
1）Centers for Disease Control and Prevention（CDC）, RSV in Infants and Young Children.
https://www.cdc.gov/rsv/infants-young-children/index.html（アクセス 2025年10月）
2）Openshaw PJM et al : Annu Rev Immunol 2017 ; 35, 501-532
3）国立健康危機管理研究機構 感染症発生動向調査週報 2013年第36号〈注目すべき感染症〉RSウイルス感染症
https://www.niid.go.jp/niid/ja/rs-virus-m/rs-virus-idwrc/3972-idwrc-1336-01.html（アクセス 2025年10月）
4）Branche AR et al : Clin Infect Dis 2022 ; 74（6）, 1004-1011
5）Centers for Disease Control and Prevention （CDC）, RSV in Adults.
https://www.cdc.gov/rsv/older-adults/?CDC_AAref_Val=https://www.cdc.gov/rsv/high-risk/older-adults.html（アクセス 2025年10月）より作図

RSウイルスの伝播経路



咳やくしゃみでウイルスを含んだ飛沫が飛び
散り、他の人の目、鼻、口に付着する

飛沫感染



直接的
接触感染

感染者の鼻汁・口腔分泌物との直接接触

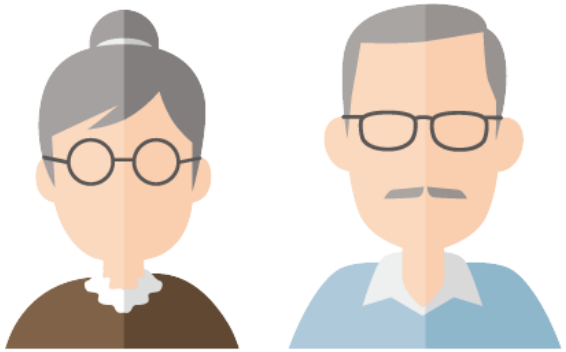
間接的
接触感染



感染者の鼻汁や口腔分泌物との間接的な接触
RSウイルスは個体の表面上で数時間生存できる

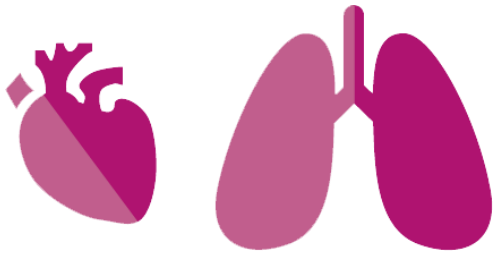
Centers for Disease Control and Prevention (CDC), 2026. How RSV Spreads. https://www.cdc.gov/rsv/causes/index.html 2026年3月3日確認

成人RSウイルス感染症の重症化リスク因子



年齢[1)]

特に**60歳以上**[2,3)]



基礎疾患[1,4,5)]

リスクが高い成人には、
慢性疾患※を有する
患者が含まれる



免疫機能[1)]

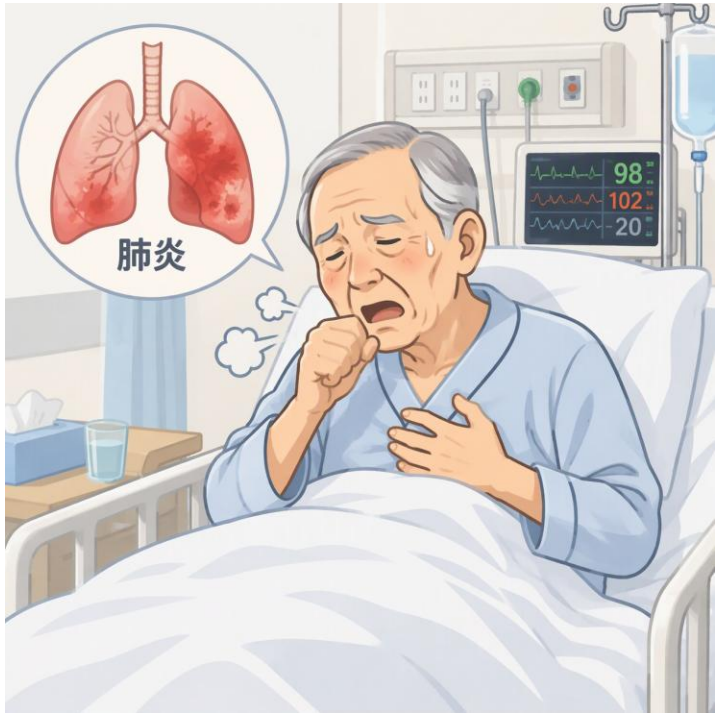
免疫機能が低下した成人[1)]

※喘息、COPD、うっ血性心不全、冠動脈疾患、糖尿病、CKDなど

1.Centers for Disease Control and Prevention (CDC), 2026. RSV in Adults. https://www.cdc.gov/rsv/adults/index.html 2026年3月3日確認
2. Belongia EA et al.Open Forum Infect Dis 2018;27;5:ofy316; 3. Tseng HF et al. J Infect Dis 2020;222:1298–1310
4.Branche AR et al.Clin Infect Dis 2022;74:1004–1011; 5.Wyffels V et al.Adv Ther 2020;37（3）:1203–1217

基礎疾患のある患者で RSウイルス感染症の重症化の可能性

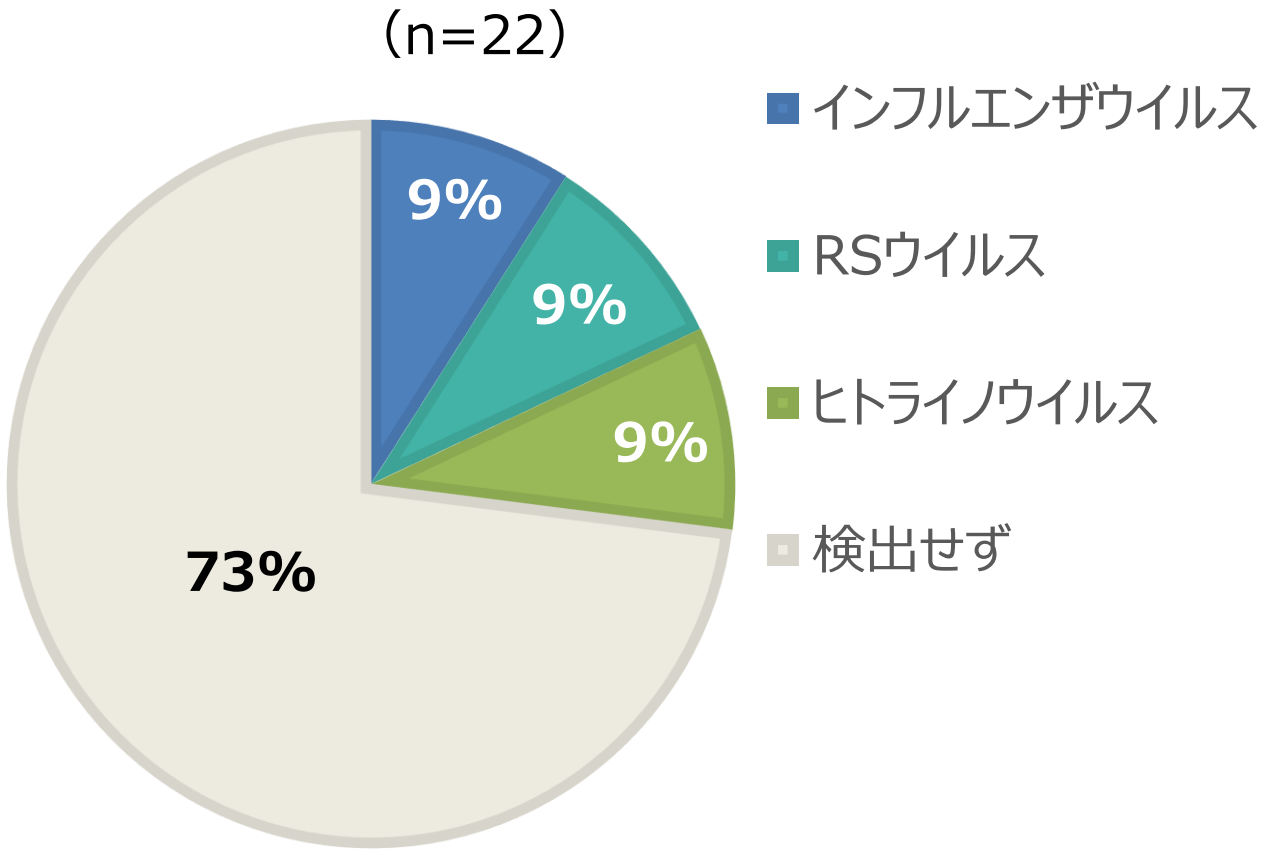
喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、心疾患、糖尿病、慢性腎臓病（CKD）などの慢性の基礎疾患がある人や免疫機能が低下している人は、RSウイルスに感染した場合、肺炎などの合併症をひきおこすおそれがある[1-5]



生成AIによる作図

1. Branche AR. et al.: Clin Infect Dis. 74(6), 1004-1011, 2022
2. National Foundation for Infectious Diseases(NFID):Call to Action: Reducing the Burden of RSV across the Lifespan(January 4. 27, 2022) [https://www.nfid.org/resource/call-to-action-reducing-the-burden-of-rsv-across-the-lifespan/, 2026年4月8日確認]
3. CDC: Respiratory Syncytial Virus Infection(RSV). RSV in Adults [https://www.cdc.gov/rsv/adults/index.html, 2026年4月8日確認]
5. Ivey KS. et al.: J Am CollCardiol. 71(14), 1574-1583, 2018
厚生労働省: RSウイルス感染症に関するQ＆A(令和6年5月31日改訂) [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/rsv_qa.htm, 2026年4月8日確認]

肺炎患者におけるRSウイルスの検出報告



対象：2016年1月15日～4月5日に気道感染症症状を呈して長崎大学病院呼吸器内科または日本赤十字社長崎原爆病院を受診した成人患者50例（上気道感染20例、急性気管支炎8例、肺炎22例）

方法：前向き観察研究。胸部X線に異常陰影の認められる患者は肺炎と診断した。すべての患者から鼻咽頭ぬぐい液を採取し、FilmArray® 呼吸器パネル（RP）を用いて、ウイルス検出を行った。

本研究の限界：サンプルは長崎の地域病院 1 施設のみから採取したため、所見の一般化には限界がみられる可能性がある。サンプルはインフルエンザの流行期にのみ採取した。FilmArray® RPで検出した病原体の疫学は季節性に依存すると考えられる。急性呼吸器感染症の診断におけるFilmArray® RPの実施前後の結果が医師に報告されていなかったため、FilmArray® RPが急性呼吸器感染症の診断に及ぼす実際の影響は解明されなかった。qRT-PCR解析で検出できたのはH1のみであり、2009年のパンデミックについては検出できなかった。未確定の２サンプルでFilmArray® RPにより検出された１つの遺伝子（Flu-pan2）が本当に陽性であったかは検証できなかった。
FilmArray® 呼吸器パネル：全自動遺伝子解析装置

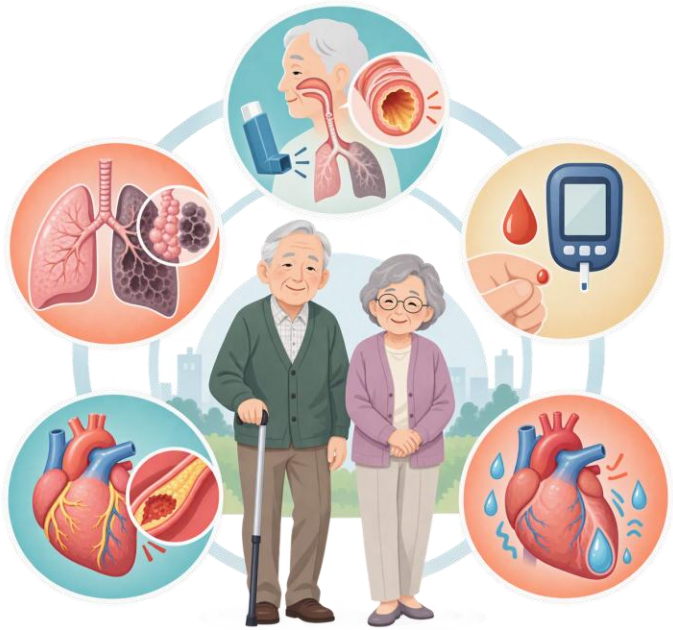
Kaku N et al : J Infect Chemother 2018 ; 24（9）, 734-738

RSウイルス感染症：基礎疾患と入院リスク

基礎疾患がある人は、RSV感染による入院率が高い（全年齢の集計）→ 退院後フレイルへ移行

COPD
3.2～13.4倍

喘息
2.0～3.6倍



糖尿病
2.4～11.4倍

冠動脈疾患
3.7～7.0倍

うっ血性心不全
4.0～33.2倍

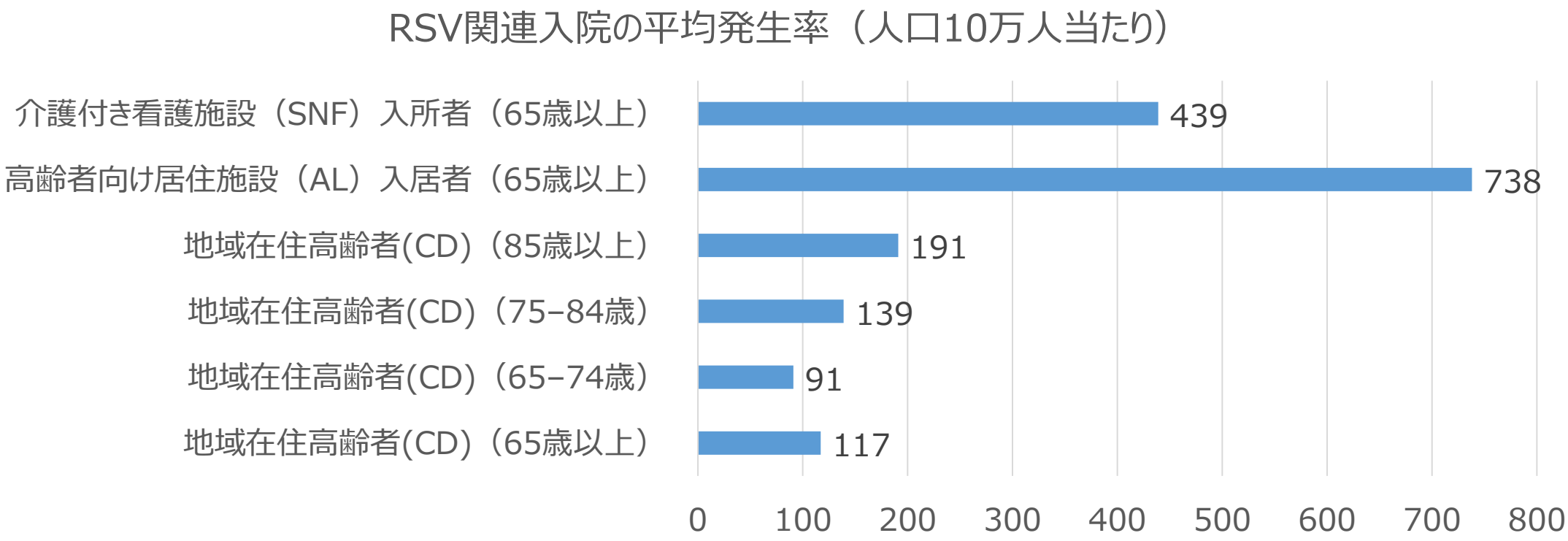
生成AIによる作図

方法：2017年から2020年の3つのRSVシーズンにわたり、ニューヨーク州ロチェスターとニューヨーク市内の3つの病院で前向きの多施設型人口ベース監視研究を実施した。18歳以上の急性呼吸器疾患（ARI）または心肺疾患の増悪で入院した患者を対象に、PCR法を用いてRSVを検出した。入院率は、米国人口推定値および病院の市場シェアデータを基に調整して計算された。
対象：対象者は10,860人の入院患者で、そのうち1,099人がRSV陽性と確認された。主な特徴は以下の通り：年齢中央値：69歳、59%が65歳以上、51%が慢性肺疾患、49%が慢性心疾患を有する
この研究の限界：この研究にはいくつかの制約がある。第一に、データがニューヨーク州内の3つの病院システムに限定されており、結果が米国全体に一般化できるかは不明である。第二に、監視期間中に週末や祝日のデータが含まれておらず、一部の症例が見逃されている可能性がある。第三に、併存疾患の特定は自己申告や電子医療記録に基づいており、診断の確実性に欠ける場合がある。また、2019～2020シーズンの監視がCOVID-19パンデミックの影響で早期終了した点も制約となる。さらに、RSV検査がすべての入院患者に対して系統的に実施されていないため、実際の発生率が過少評価されている可能性がある。

Branche AR et al：Clin Infect Dis 2022；74（6），1004-1011より作図

ニューヨーク州ロチェスター住民10万人当たりのRSV関連入院の平均年間発生率（米国）

2017–2020年の3シーズン



高齢者施設入居者は、地域在住高齢者と比べ、RSV関連入院の年間発生率が約4～6倍高かった

AL, assisted living; CD, community-dwelling; SNF, skilled nursing facility.

目的： 高齢者におけるRSV関連入院の疾病負荷を居住環境別に評価すること。対象： 米国ニューヨーク州の65歳以上の地域在住者（CD）、介護付き看護施設（SNF）・高齢者向け居住施設（AL）入居者。方法・解析： 2017～2020年の3冬季に前向きサーベイランスを行い、居住形態別にRSV関連入院の人口ベース年間発生率を算出。

限界： 施設入居者は地域在住者より高齢で併存疾患も多く、背景因子を調整した比較ではないため、施設居住自体の独立した影響は評価できない。

The Journal of Infectious Diseases, Volume 230, Issue 5, 15 November 2024, Pages e1007–e1011, https://doi.org/10.1093/infdis/jiae424

世界の国家推奨：高齢者RSVワクチン

国	年齢	リスク群	高齢者施設
米国 (ACIP/CDC)[1]	≥75歳 推奨	50–74歳のリスク群に推奨	50歳以上の介護施設入所者に推奨
英国 (JCVI)[2]		65–74歳の慢性呼吸器疾患・免疫不全に推奨	18歳以上の介護施設入所者に推奨
カナダ (NACI)[3]		65–74歳のリスク群に推奨	18歳以上の介護施設 / 長期療養施設入所者に推奨
ドイツ (STIKO)[4]		60–74歳の重症リスク群に推奨	60-74歳の介護施設入居者に推奨
フランス (HAS)[5]		≥65歳の慢性心肺疾患に推奨	該当せず

1. https://www.cdc.gov/rsv/hcp/vaccine-clinical-guidance/adults.html
2. https://www.gov.uk/government/publications/respiratory-syncytial-virus-rsv-programme-information-for-healthcare-professionals/rsv-vaccination-of-older-adults-information-for-healthcare-practioners
3. https://www.canada.ca/en/public-health/services/reports-publications/canada-communicable-disease-report-ccdr/monthly-issue/2026-52/issue-6-june-2026/updated-guidance-rsv-vaccines-older-adults-adults-high-risk.html
4. https://www.rki.de/EN/Topics/Infectious-diseases/Immunisation/STIKO/STIKO-recommendations/Downloads/04_25_english.pdf?__blob=publicationFile&v=2
5. https://www.has-sante.fr/jcms/p_3460918/fr/strategie-vaccinale-de-prevention-des-infections-par-le-vrs-chez-l-adulte-age-de-60-ans-et-plus

日本感染症学会/日本呼吸器学会/日本ワクチン学会

成人RSウイルスワクチンに関する見解

7. 高齢者へのRSVワクチンの接種を推奨します

RSV感染症は、高齢者および慢性呼吸器疾患・慢性心疾患などの基礎疾患を有する成人において、国内外でインフルエンザと同程度の重症化リスク（入院率や死亡率）があることが報告されています。RSVは、高齢者および基礎疾患を有する成人において、呼吸器感染症の主要な原因ウイルスと考えられますが、成人のRSV感染症には、インフルエンザやCOVID-19のような抗ウイルス薬は存在しません。現在、複数のRSVワクチンが承認されていますが、いずれも高い有効性と良好な忍容性を示しており、予防接種のベネフィットはリスクを上回ると考えられます。公衆衛生危機管理上の重点感染症に指定されているRSV感染症の感染対策として、RSVワクチンの接種を推奨します。なお、わが国ではRSV感染症による死亡者数をはじめ全国的な疫学データが十分ではないことから、今後わが国でも、死亡転帰など重症化に関する高齢者のRSV感染症の疫学情報のさらなる蓄積が望まれます。

＊2026年4月に一般社団法人**日本心不全学会**からも賛同いただきました。
＊2026年6月に一般社団法人**日本老年医学会**からも賛同いただきました。
＊2026年8月に一般社団法人**日本透析医学会**からも賛同いただきました。

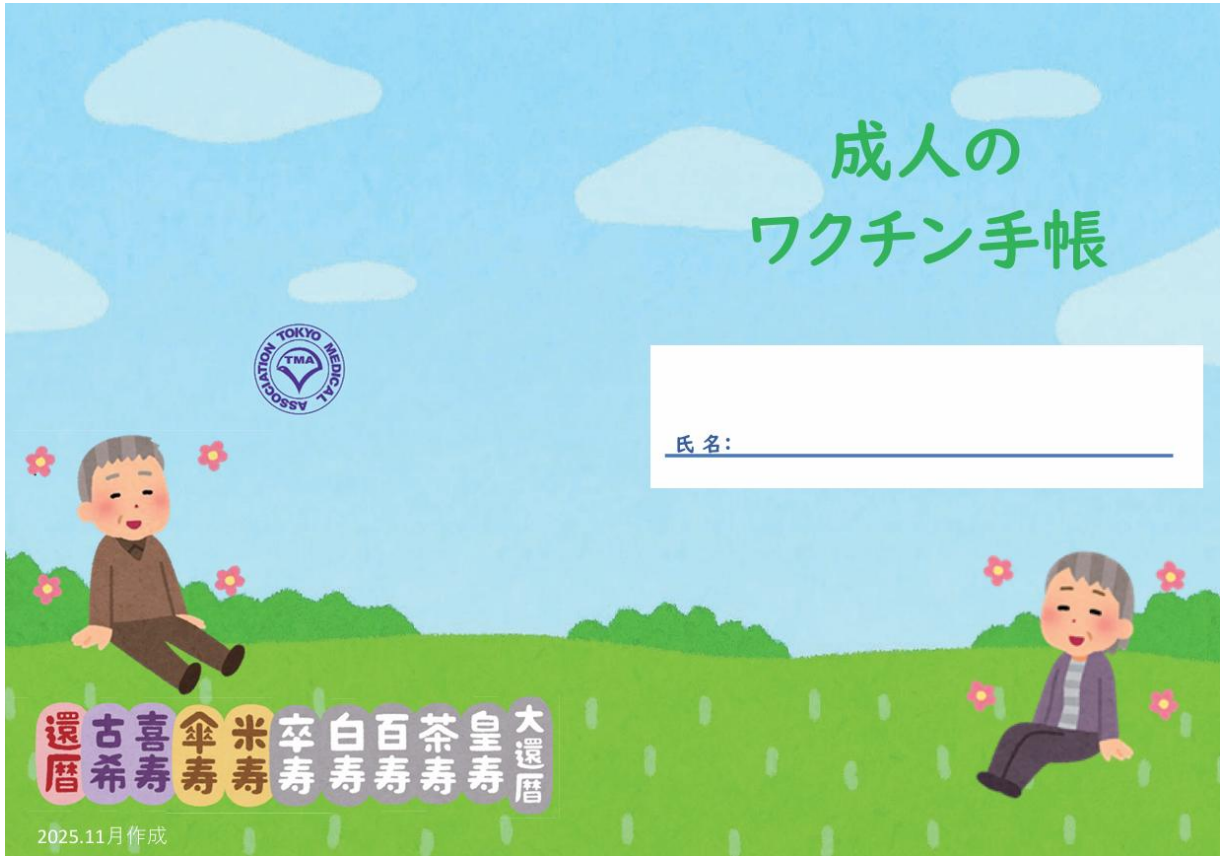
成人のRSウイルスワクチンに関する見解（日本感染症学会、日本呼吸器学会、日本ワクチン学会）
https://www.kansensho.or.jp/modules/guidelines/index.php?content_id=62

一般社団法人 日本老年医学会
65歳以上の成人で接種を検討すべきワクチン



一般社団法人 **日本老年医学会**：65歳以上の成人で接種を検討すべきワクチン
https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/tool/consider_vaccine.html（アクセス 2025年7月）より作図

東京都医師会が推奨する
高齢者5大ワクチン





高齢者の費用負担の軽減のためにも、高齢者RSウイルスワクチンも定期接種に追加して高齢者には5種類のワクチン接種が望まれます。

【まとめ】

いつ災害に遭遇しても不自然ではない中、
できることから備えておきましょう！

今月２日に発足した防災庁
「事前防災徹底のための緊急要請」
「国民一人一人が自らの命は自らが守る」

感染症対策においても事前防災を徹底することが必要！

公益社団法人
東京都医師会